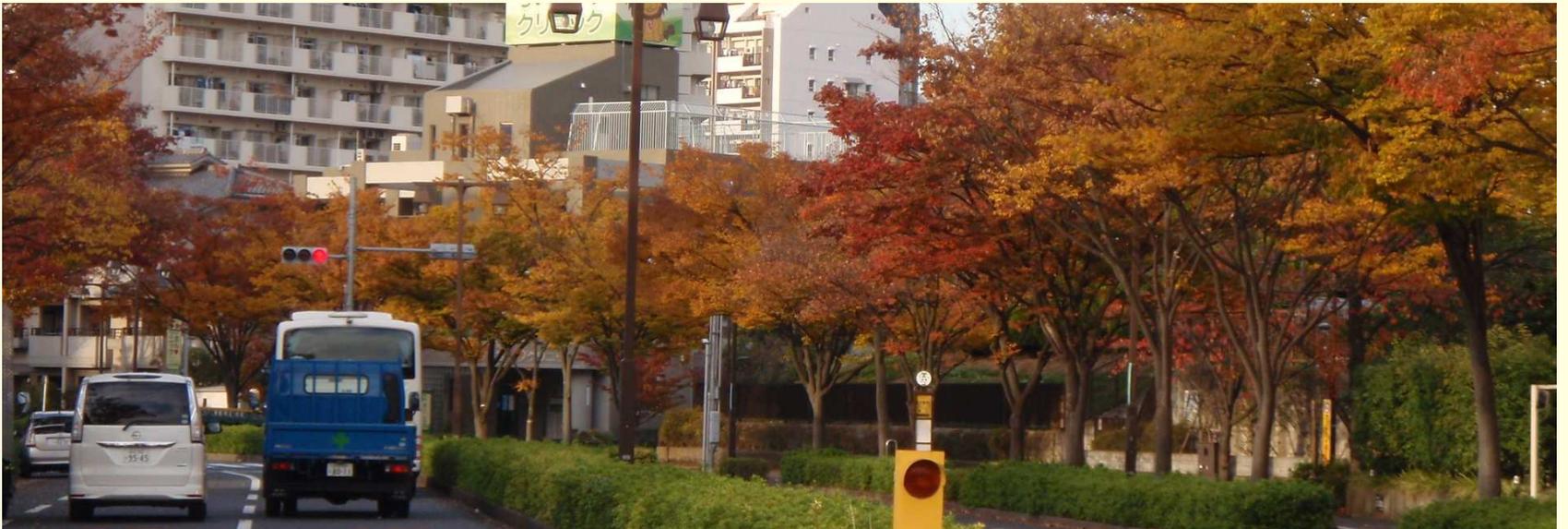


## 東京下町 樹木探索

### 赤い紅葉と「アントシアニン」



ケヤキ並木の紅葉

今年の秋は、紅葉が綺麗です。東京では11月に入ってから冷え込みが厳しく、11月11日の最低気温は5.7度。紅葉の始まる最低気温は8℃以下と言われていますから、これで紅葉が一気に進んだ感じです。

紅葉が綺麗に染まる条件は、①昼と夜の寒暖差が大きいこと(日中20~25℃、夜間は5~10℃)、②日中の天気がいいこと、そして③適度な雨や湿気があること。ここ数日の気象内容は、その条件にピッタリとはまった模様です。

近くの公園を覗いてみると、黄色に輝いているのはイチョウやプラタナス、赤く染まっているのはイロハモミジやハゼノキです。ニシキギに至ってはこれ以上の赤な無いだろうと思えるくらいに真っ赤、特に今年的美しさは圧巻で去年と比較すれば歴然です。



ニシキギ(奥)とアカシデ(手前)

紅葉の赤は、葉の中に残った糖分からアントシアニンという赤い色素が合成されて蓄積されるため。このアントシアニン生成の目的は、老化過程にある葉において、有害な活性酸素を発生させる紫外線から体を守るためという説があるようです。

アントシアニンといえば、アンチエイジングや眼精疲労の予防に効果があるとされ、多くのサプリメントが発売されています。しかしながら、その主原料はブルーベリーやアサイーなどで、「真っ赤な紅葉を粉末にしました。」などという謳(うた)い文句はどこを探しても見つかりません。



サクラ

はからずも今日11月17日はボジョレーヌーボーの解禁日。赤ワインにもたくさんのアントシアニンが含まれていて、フランス人の心臓疾患が少ないのは大量にワインを飲む為であるとする論文は有名です。しかしながら、これはフレンチパラドックス(French paradox)と言われていて、もっともらしい仮定や推論(すいろん)から間違った結論が導き出された一例です。



紅葉した「ツタ」

話を戻して、他にどんな木が紅葉しているのだろうと探してみれば、サクラ、アカシデ、アオギリ、エノキ、カツラなど、ありとあらゆる落葉広葉樹と言われる種類の木々達が、赤や黄に染まっています。

不思議なのはケヤキ(欒)の紅葉、赤や橙、黄色などと個体ごとに文字通り色々な色の木があって不思議です。独立行政法人材木育種センターの2005年2月の情報誌によれば、接ぎ木によって調べた結果、生育環境や気象条件よりも遺伝によるものが支配的という結論になりました。